

景気動向調査結果

(令和2年1月分)

長野県産業労働部

この調査は、県内企業 700 社（製造業 300 社（うち面接 65 社）、非製造業 400 社（建設業、情報サービス業、小売業、卸売業、飲食業、宿泊業））を対象に、令和 2 年 1 月末の状況（前年同期、3 か月前と比較した状況、3 か月後の状況予想）について、令和 2 年 2 月に面接又は書面により行ったものです。

なお、平成 23 年度の調査から、従来の「製造業」に、「非製造業」（建設業、情報サービス業、小売業、卸売業、飲食業、宿泊業）も加えて実施しています。

また、平成 26 年度の調査から、非製造業の調査対象企業数を従来の 600 社から 400 社に変更し、平成 29 年度の調査から、小売業と卸売業、飲食業と宿泊業を分けて結果を発表しています。

回答企業数は、426 社（製造業 223 社（うち面接 61 社）、非製造業 203 社）で、回答率は 60.9 パーセントでした。

※調査結果の概要は、インターネットで御覧になれます。

<http://www.pref.nagano.lg.jp/sansei/sangyo/shokogyo/toukei/kekka/index.html>

お問い合わせ先：製造業について

長野県産業労働部産業政策課（TEL 026-232-0111 内線 2919）

非製造業について

長野県産業労働部産業立地・経営支援課（TEL 026-232-0111 内線 2961）

令和2年1月の景気動向

1 総論

長野県経済は、一部に回復に向けた動きがみられるものの、海外経済の減速などの影響により、弱含んでいます。先行きについては、新型コロナウイルス感染症による影響も懸念されます。

製造業の業況は、電機・電子、一般機械などで受注、生産が回復したものの、米中貿易摩擦による中国経済の減速などの影響を受け、6期連続のマイナス水準となりました。

非製造業の業況は、建設業では悪化したものの、飲食業、宿泊業などでは改善したことから、全体ではマイナス水準ながらも3期ぶりに改善しました。

2 製造業

(1) 業界の業況

前年同期（平成31年1月）と比較したD I（業況が「好転」とする企業の割合から「悪化」とする企業の割合を引いた差）は $\Delta 43.0$ となり、前回調査時（令和元年10月）の $\Delta 55.4$ より12.4ポイント改善したものの、6期連続のマイナス水準となりました。

3か月前（令和元年10月）と比較したD Iは $\Delta 22.7$ となり、前回調査時の $\Delta 24.4$ より1.7ポイント改善したものの、6期連続のマイナス水準となりました。

また、3か月後（令和2年4月）の予想では、D Iは $\Delta 10.6$ となり、7期連続のマイナス水準となりました。

〔主な業種の動き〕

ア 電機・電子では、パソコンは、テレワーク向けなどの需要の増加により、堅調に推移しています。プリンターは、新興国の一部で需要の減少がみられるものの、受注、生産は堅調に推移しています。半導体関連、抵抗器・コンデンサ、モーター等は、スマートフォン向けや産業用途向けで、一部に回復に向けた動きがみられるものの、米中貿易摩擦による中国経済の減速などの影響から、総じて受注、生産が弱含んでいます。

イ 一般機械では、工作機械は、半導体関連向けで、一部に回復に向けた動きがみられるものの、自動車関連向けでは、米中貿易摩擦による中国経済の減速などの影響から、受注、生産が弱含んでいます。建設機械は、国内向けは受注、生産に弱さがみられるものの、北米や欧州向けの海外向けで、受注、生産が順調に推移しています。

ウ 精密では、時計は国内需要の低迷により、受注、生産が横ばいに推移しています。レンズは、自動車関連向けで弱含んでいるほか、プロジェクター向けでは、高付加価値製品に回復がみられるものの、受注、生産に弱さがみられます。計器は、圧力計は産業機械向けの一部に回復に向けた動きがみられるものの、自動車向けでは、米中貿易摩擦による中国経済の減速などの影響から、受注、生産が弱含んでいます。LPガスメーターは、取替需要等により受注、生産が増加しています。

エ 自動車部品では、国内向けは自動車販売台数の減少などの影響から受注、生産が弱含んでいます。海外向けは、北米向けで受注、生産が順調に推移しているものの、アジアのうち中国向けなどでは米中貿易摩擦による中国経済の減速などの影響から、受注、生産が弱含んでいます。

オ 食料品では、味そは季節的要因により、3か月前と比べ受注、生産が減少しています。酒類は、清酒は低調に推移しているものの、ワインは国内消費の増加により、受注、生産が堅調に推移しています。飲料は季節的要因により、ペットボトル飲料を中心に受注、生産が減少しています。

(2)受注引合

前年同期比では、「増加」とする企業が18.6%と前回(10.0%)より増加し、「減少」とする企業が53.8%と前回(62.8%)より減少した結果、D Iは前回(△52.8)より改善し、△35.2となりました。

3か月前との比較では、「増加」とする企業が16.4%と前回(14.3%)より増加し、「減少」とする企業が34.1%と前回(34.9%)よりやや減少した結果、D Iは前回(△20.6)より改善し、△17.7となりました。

3か月後の予想については、「増加」とする企業が17.9%、「減少」とする企業が23.4%となった結果、D Iは△5.5となりました。

(3)生産量

前年同期比では、「増加」とする企業が17.9%と前回(11.8%)より増加し、「減少」とする企業が50.0%と前回(58.6%)より減少した結果、D Iは前回(△46.8)より改善し、△32.1となりました。

3か月前との比較では、「増加」とする企業が15.7%と前回(17.0%)より減少し、「減少」とする企業が39.2%と前回(31.5%)より増加した結果、D Iは前回(△14.5)より悪化し、△23.5となりました。

3か月後の予想については、「増加」とする企業が23.5%、「減少」とする企業が24.4%となった結果、D Iは△0.9となりました。

(4)製品販売価格

前年同期比では、「高い」とする企業が9.0%と前回(11.4%)より減少し、「安い」とする企業が16.7%と前回(16.0%)よりやや増加した結果、D Iは前回(△4.6)より悪化し、△7.7となりました。

3か月前との比較では、「高い」とする企業が5.9%と前回(3.0%)より増加し、「安い」とする企業が5.9%と前回(7.6%)より減少した結果、D Iは前回(△4.6)より改善し、0.0となりました。

3か月後の予想については、「高い」とする企業が2.3%、「安い」とする企業が7.3%となった結果、D Iは△5.0となりました。

(5)資金繰り

前年同期比では、「らく」とする企業が3.7%と前回(6.9%)より減少し、「苦しい」とする企業が23.7%と前回(22.8%)よりやや増加した結果、D Iは前回(△15.9)より悪化し、△20.0となりました。

3か月前との比較では、「らく」とする企業が4.2%と前回(5.6%)より減少し、「苦しい」とする企業が14.5%と前回(16.9%)より減少した結果、D Iは前回(△11.3)よりやや改善し、△10.3となりました。

3か月後の予想については、「らく」とする企業が4.7%、「苦しい」とする企業が15.5%となった結果、D Iは△10.8となりました。

(6)収益率

前年同期比では、「上昇」とする企業が11.3%と前回(10.0%)より増加し、「低下」とする企業が48.9%と前回(54.8%)より減少した結果、D Iは前回(△44.8)より改善し、△37.6となりました。

3か月前との比較では、「上昇」とする企業が6.8%と前回(7.6%)よりやや減少し、「低下」とする企業が29.1%と前回(31.2%)より減少した結果、D Iは前回(△23.6)より改善し、△22.3となりました。

3か月後の予想については、「上昇」とする企業が9.2%、「低下」とする企業が19.3%となった結果、D Iは△10.1となりました。

(7) 製造業の業種別動向

電機・電子

(コンピュータ・情報機器) パソコンは、テレワーク向けなどの需要の増加により、堅調に推移しています。

プリンターは、新興国の一部で需要の減少がみられるものの、受注、生産が堅調に推移しています。

(半導体関連・プリント基板) スマートフォン向けは、一部で受注、生産に回復がみられるものの、自動車関連向けや産業用途では、米中貿易摩擦による中国経済の減速などの影響から、受注、生産が弱含んでいます。

(抵抗器・コンデンサ等) 産業用途は、一部に回復に向けた動きがみられるものの、米中貿易摩擦による中国経済の減速などの影響から、受注、生産が弱含んでいます。自動車関連向けでは、受注、生産が弱含んでいます。

(モーター等) 産業用途は、一部に回復に向けた動きがみられるものの、米中貿易摩擦による中国経済の減速などの影響から、受注、生産が弱含んでいます。自動車関連向けは、EV車などの需要は堅調であるものの、米中貿易摩擦による中国経済の減速などの影響から、総じて受注、生産が弱含んでいます。家電向けは、受注、生産が弱含んでいます。

(その他) カーナビゲーションは、国内需要の減少などにより、受注、生産が減少しています。電源関連は、国内需要の減少により、低調に推移しています。

一般機械

(工作機械) 半導体関連向けは、一部に回復に向けた動きがみられるものの、自動車関連向けでは米中貿易摩擦による中国経済の減速などの影響から、受注、生産が弱含んでいます。

(金型) 自動車関連向けは、国内需要の減少により、受注、生産が弱含んでいます。

(建設機械) 国内向けは、受注、生産に弱さがみられるものの、北米や欧州の海外向けでは、受注、生産が順調に推移しています。

(農業用機械等) 国内向けで、一部に消費税率引上げに伴う駆け込み需要の反動などがみられるものの、季節的要因により受注、生産が持ち直しているほか、東南アジアや欧州の海外向けで、受注、生産が堅調に推移しています。

精 密	
(時 計)	腕時計は、国内需要の低迷により、受注、生産が横ばいに推移しています。
(レ ン ズ)	自動車関連向けで受注、生産が弱含んでいるほか、プロジェクター向けでは、高付加価値製品に回復がみられるものの、受注、生産に弱さがみられます。
(計 器)	圧力計は、産業機械向けの一部で回復に向けた動きがみられるものの、自動車向けでは、米中貿易摩擦による中国経済の減速などの影響から、受注、生産が弱含んでいます。LPガスメーターは、取替需要等により受注、生産が増加しています。
自 動 車 部 品	国内向けは、自動車販売台数の減少などの影響から、生産が弱含んでいます。海外向けは、北米向けで受注、生産が順調に推移しているものの、アジアのうち中国向けなどでは米中貿易摩擦による中国経済の減速などの影響から、受注、生産が弱含んでいます。
食 料 品	
(味 そ)	季節的要因により、3か月前と比べ受注、生産が減少しています。
(酒 類)	清酒は低調に推移しているものの、ワインは国内消費の増加により、受注、生産が堅調に推移しています。
(飲 料)	季節的要因により、ペットボトル飲料を中心に受注、生産が減少しています。
織 維 ・ 衣 服	ワイシャツは、季節的要因により、受注が減少しています。
紙 ・ パルプ	ダンボールは、季節的要因により、農産物向けで受注、生産が減少しています。
印 刷	印刷・製本の需要の低迷により、引き続き低調に推移しています。
そ の 他	プラスチック成型部品は、スマートフォン向けで、受注、生産が底堅く推移しています。

3 非製造業

業界の業況

前年同期（平成31年1月）と比較したD Iは $\Delta 35.5$ となり、前回調査時（令和元年10月）の $\Delta 44.8$ より9.3ポイント改善し、3期ぶりの改善となりました。

3か月前（令和元年10月）と比較したD Iは $\Delta 28.6$ となり、前回調査時の $\Delta 45.1$ より16.5ポイント改善しました。

また、3か月後（令和2年4月）の予想では、D Iが $\Delta 16.7$ となりました。

〔各業種の動き〕

ア 建設業

建設業では、民間工事や暖冬による除雪需要の減少などから、売上高D I、客数D I等が悪化したため、業況D Iは $\Delta 23.5$ と前回（6.9）より大幅に悪化しました。

3か月後は、収益率D Iの低下が見込まれることから、業況D Iは低下が予想されます。

イ 情報サービス業

情報サービス業では、売上高D I、収益率D Iが改善したため、業況D Iは25.0と前回（12.5）より改善しました。

3か月後は、売上高D I、収益率D I等の上昇が見込まれることから、業況D Iは上昇が予想されます。

ウ 小売業

小売業では、一部で消費税率引上げに伴う駆け込み需要の反動が和らいでいることなどから、売上高D I、客数D I等が改善しましたが、業況D Iは $\Delta 50.9$ と前回（ $\Delta 51.0$ ）とほぼ同じとなりました。

3か月後は、売上高D I、収益率D I等の上昇が見込まれることから、業況D Iは上昇が予想されます。

エ 卸売業

卸売業では、売上高D I、販売価格D I等が改善したため、業況D Iは $\Delta 42.1$ と前回（ $\Delta 58.8$ ）より改善しました。

3か月後は、売上高D I、販売価格D I等の上昇が見込まれることから、業況D Iは上昇が予想されます。

オ 飲食業

飲食業では、令和元年東日本台風災害による慎重志向が和らいでいることなどから、売上高D I、客数D I等が改善したため、業況D Iは4.8と前回（ $\Delta 60.0$ ）より大幅に改善し、3期ぶりのプラス水準となりました。

3か月後は、売上高D I、客数D I等の上昇が見込まれることから、業況D Iは上昇が予想されます。

カ 宿泊業

宿泊業では、令和元年東日本台風災害の影響により落ち込んでいた国内の旅行需要が持ち直しているほか、インバウンド需要が底堅く推移したことなどから、売上高D I、客数D I等が改善したため、業況D Iは $\Delta 30.8$ と前回（ $\Delta 100.0$ ）より大幅に改善しました。

3か月後は、売上高D I、客数D I等の上昇が見込まれることから、業況D Iは上昇が予想されます。

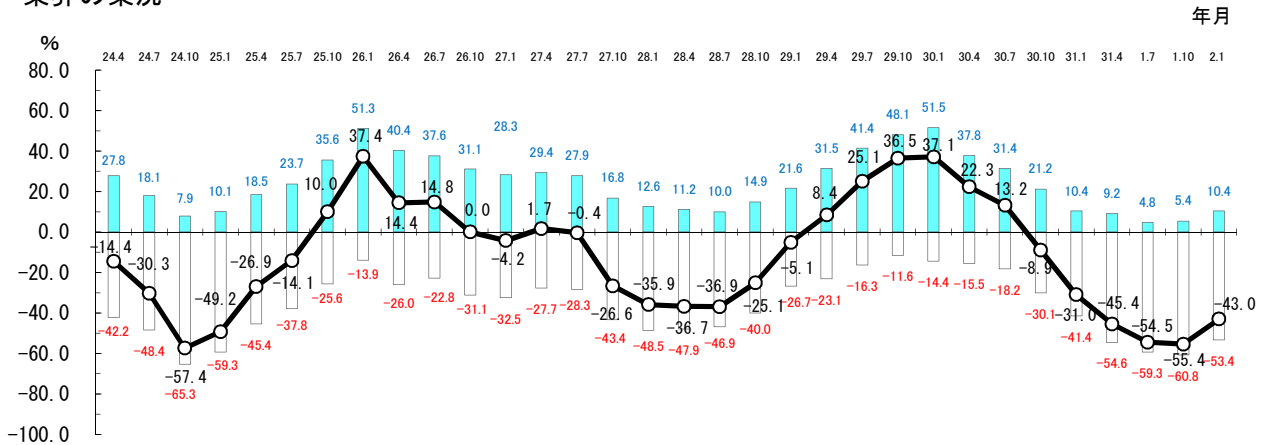
景気動向調査集計結果

(注)棒グラフのプラス側は好転(増加、上昇)の企業の割合、マイナス側は悪化(減少、低下)の企業の割合です。
折れ線グラフ(DI)は好転(増加、上昇)の企業の割合から悪化(減少、低下)の企業の割合を引いた差です。

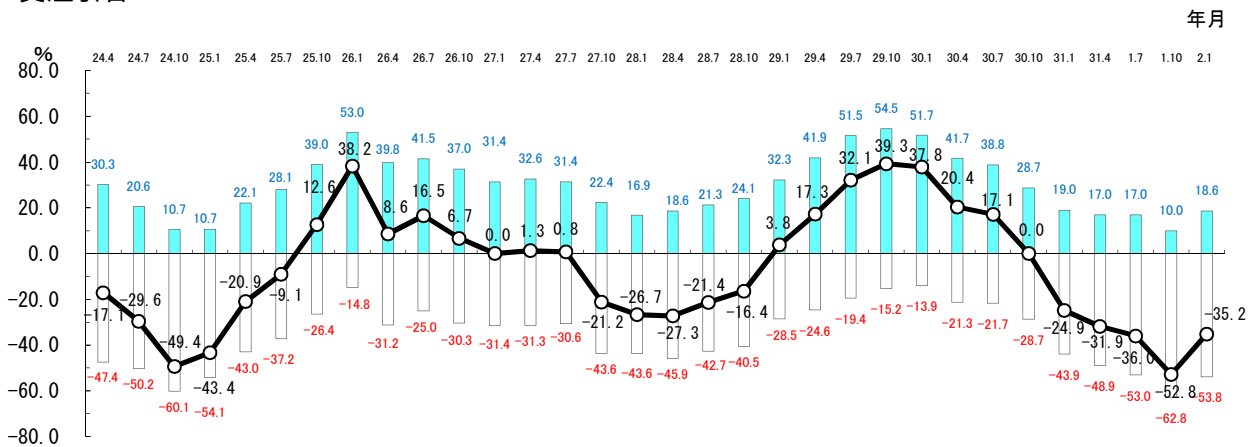
1 製造業

(1) 前年同期に比べて

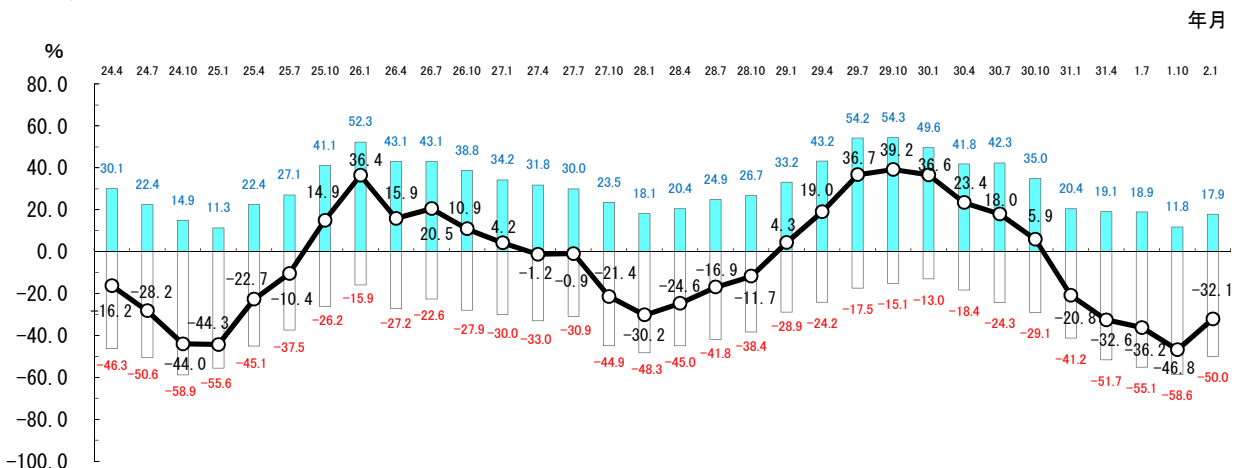
業界の業況



受注引合

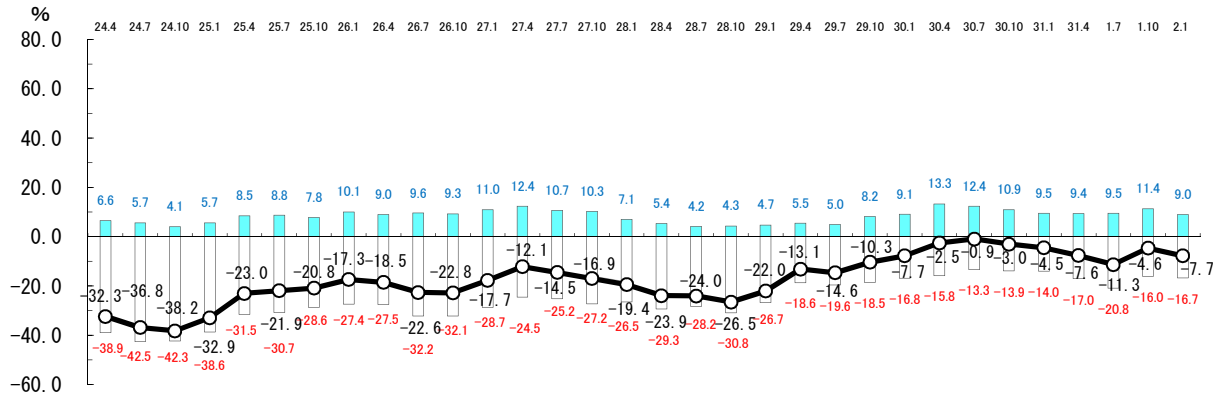


生産量



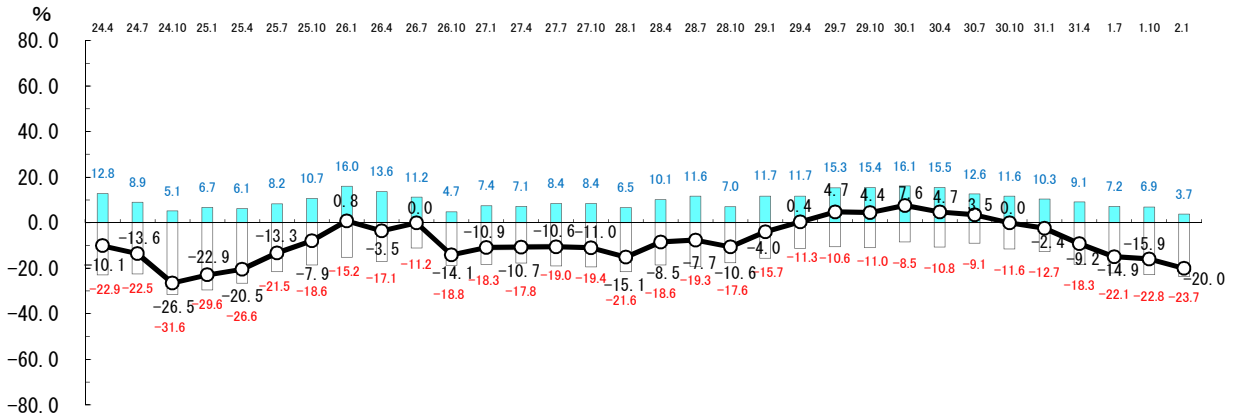
製品販売価格

年月



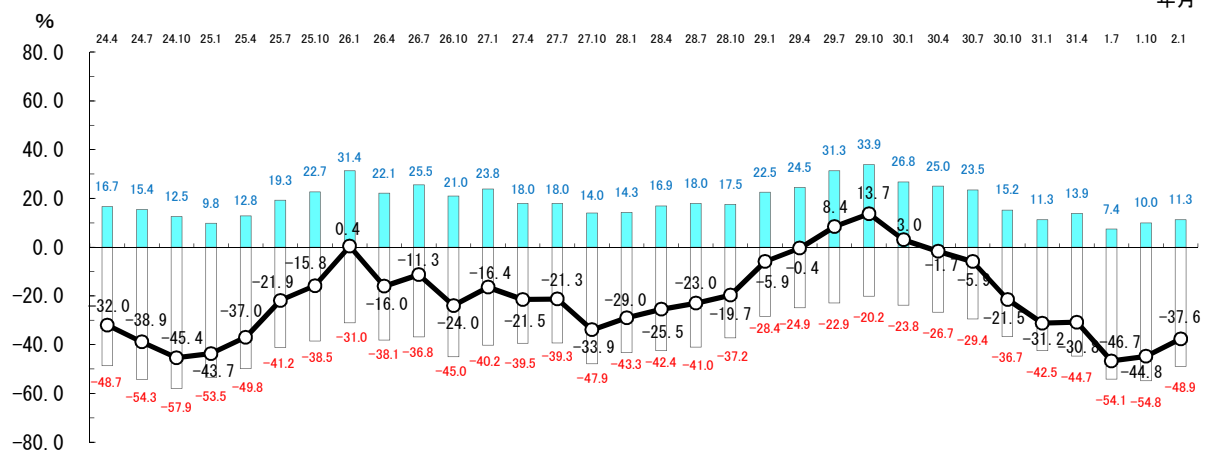
資金繰り

年月



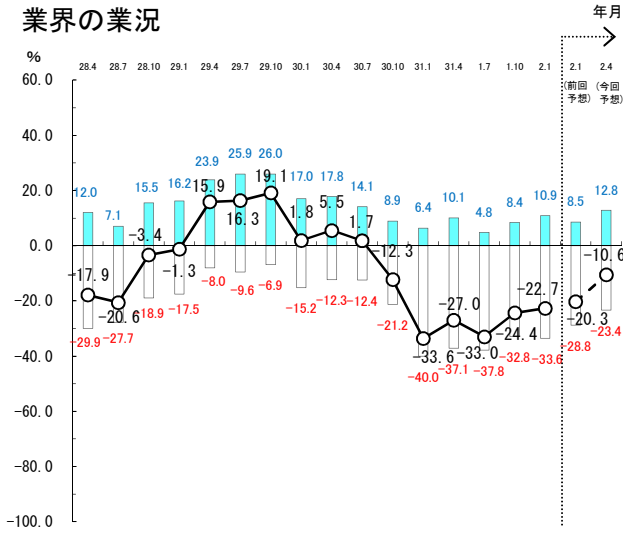
収益率

年月

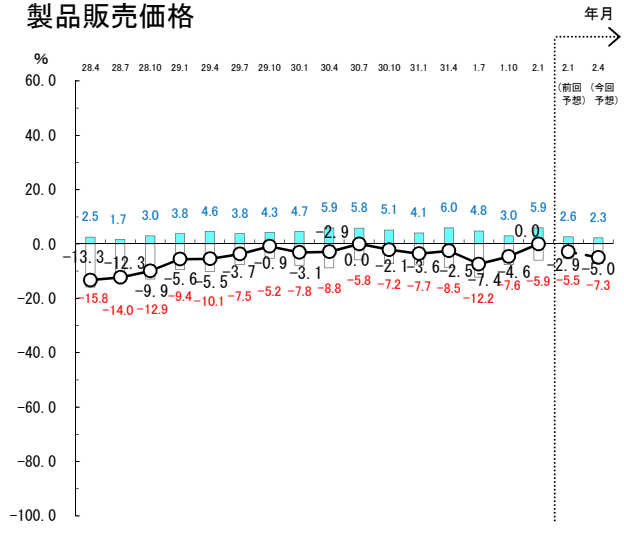


(2) 3か月前に比べて及び3か月後の予想

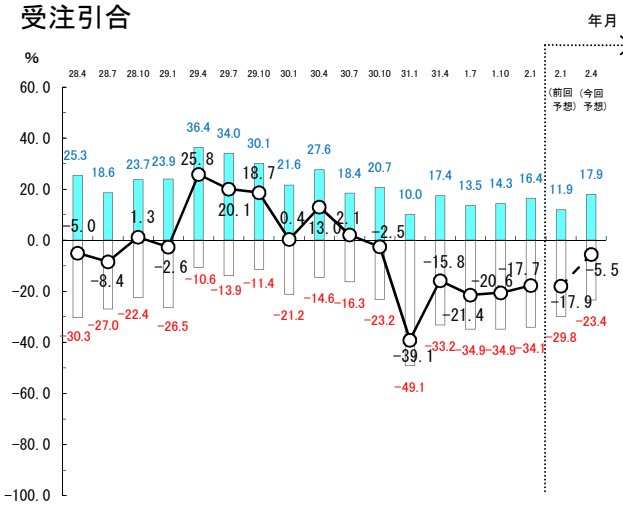
業界の業況



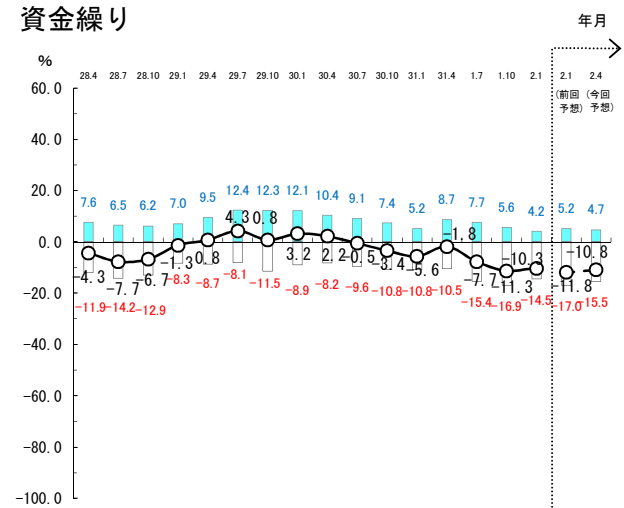
製品販売価格



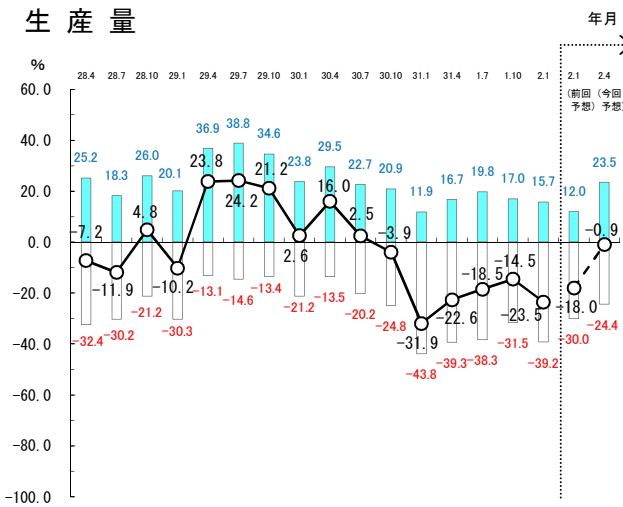
受注引合



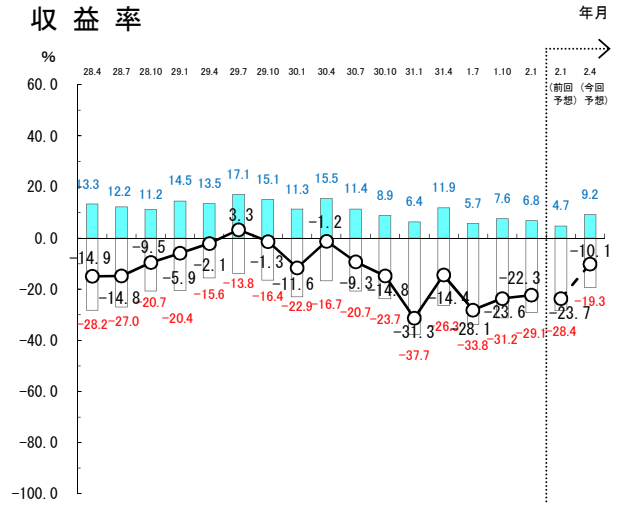
資金繰り



生産量



収益率

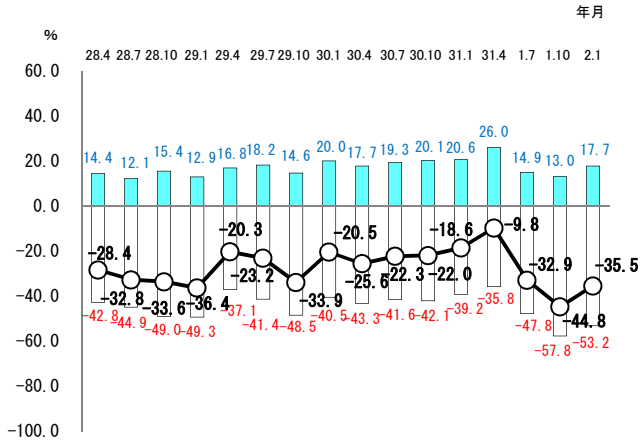


2 非製造業

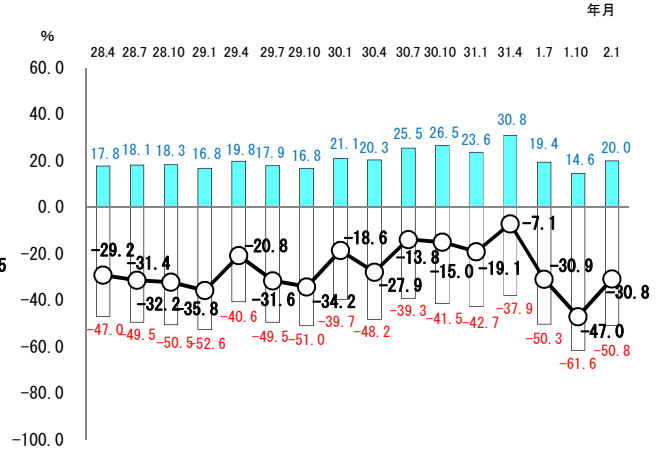
(1) 前年同期に比べて

非製造業全体

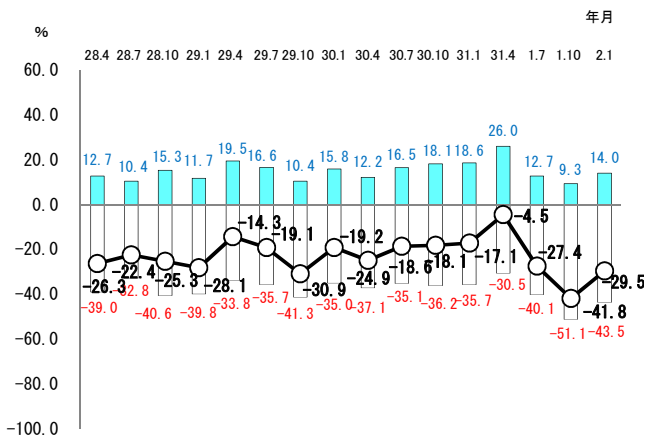
業況



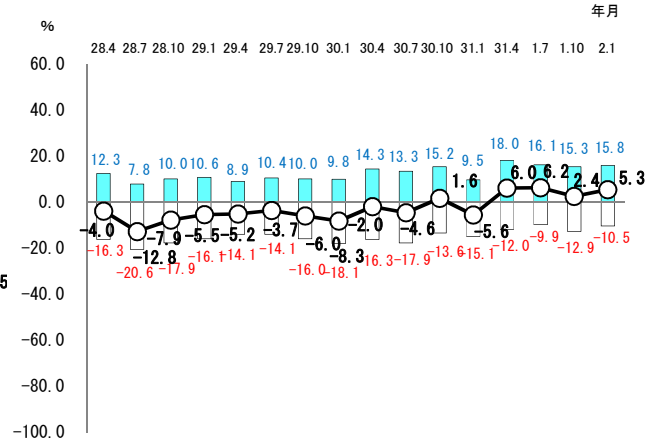
売上高



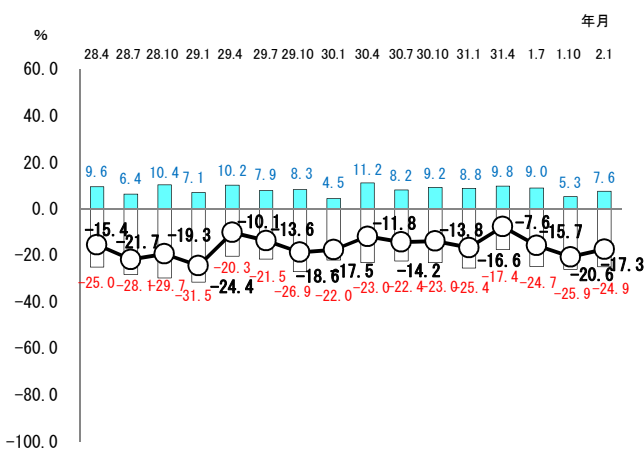
客数 (受注件数・取引先数)



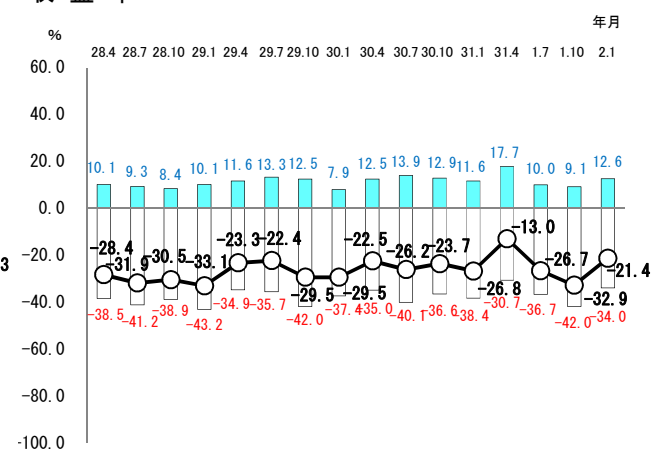
販売価格



資金繰り

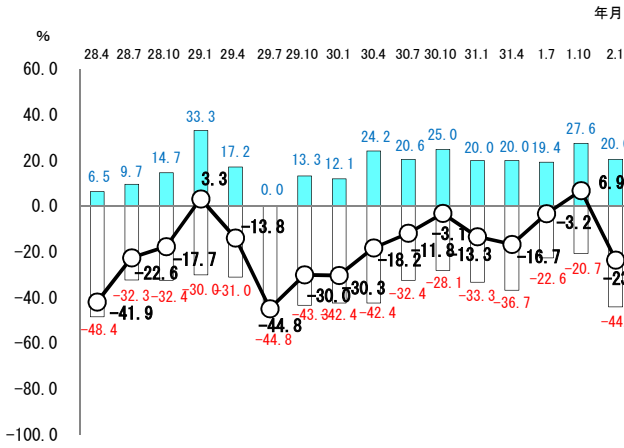


収益率

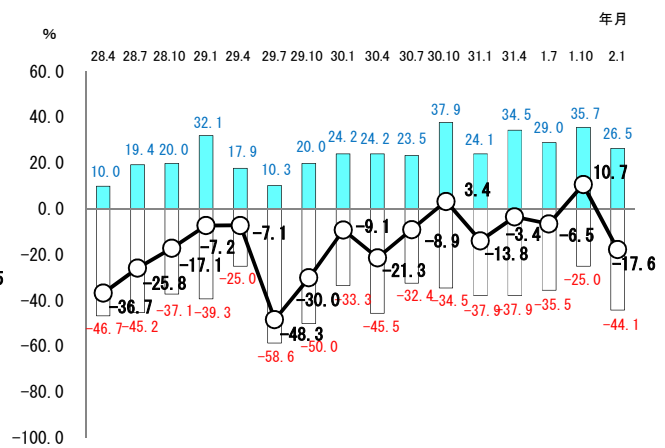


ア 建設業

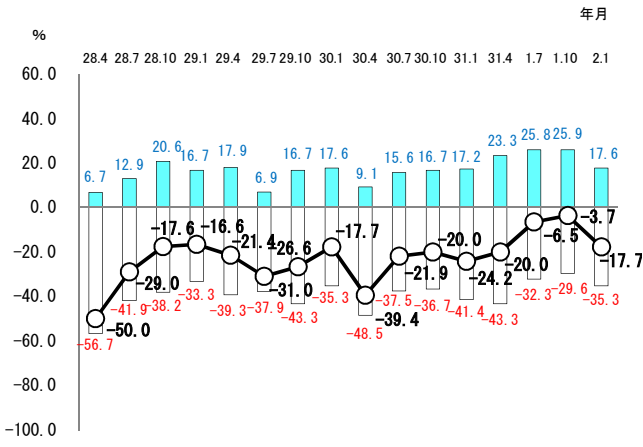
業況



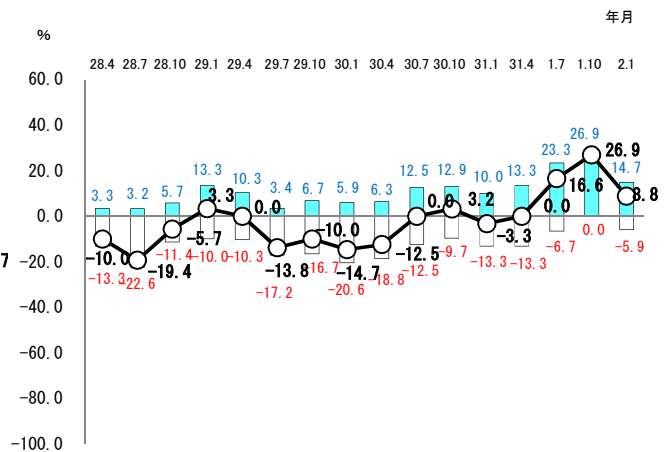
売上高



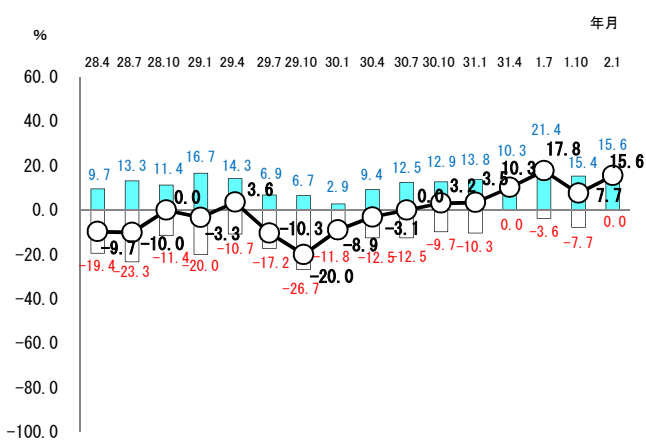
容数 (受注件数)



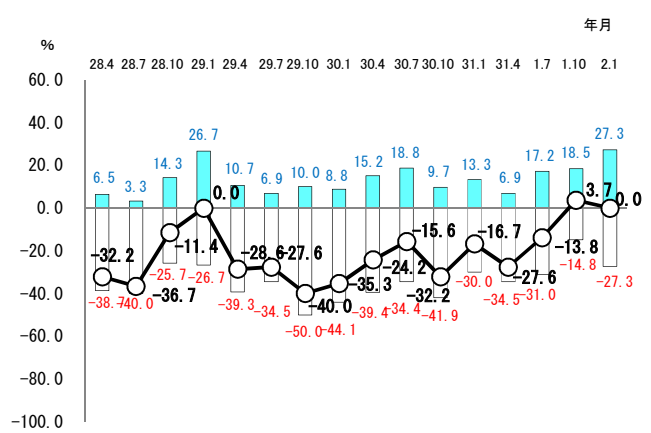
販売価格



資金繰り

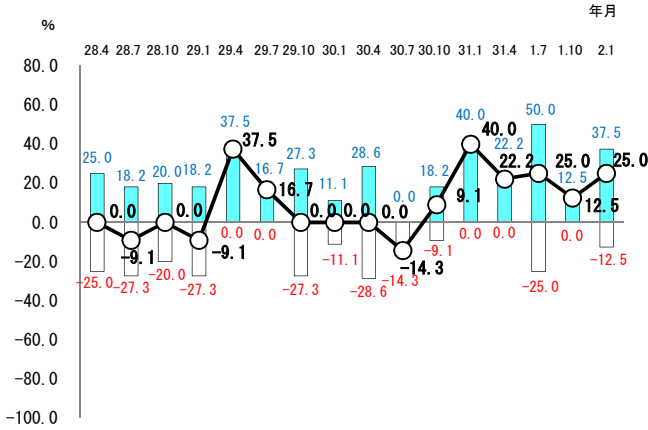


収益率

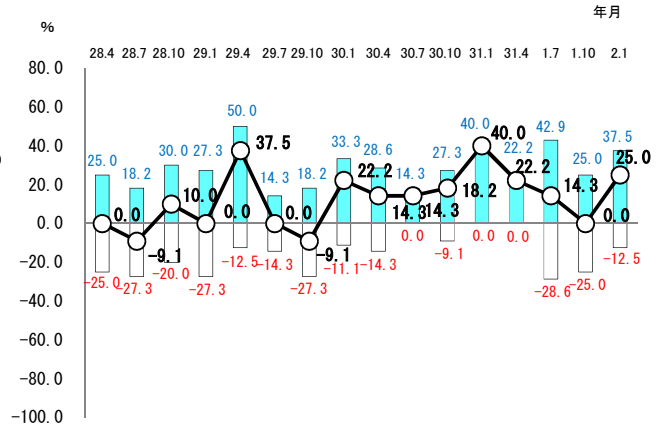


イ 情報サービス業

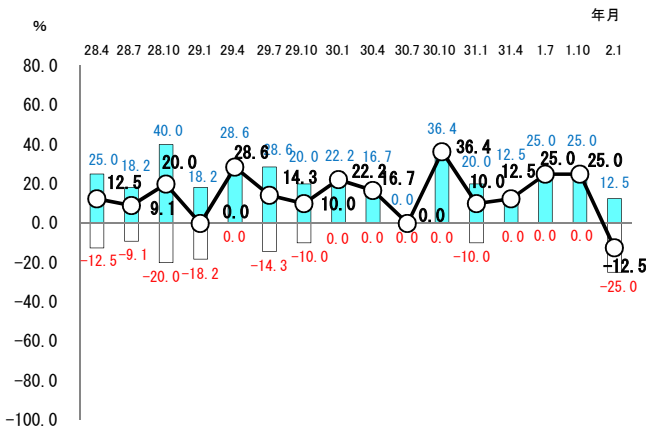
業況



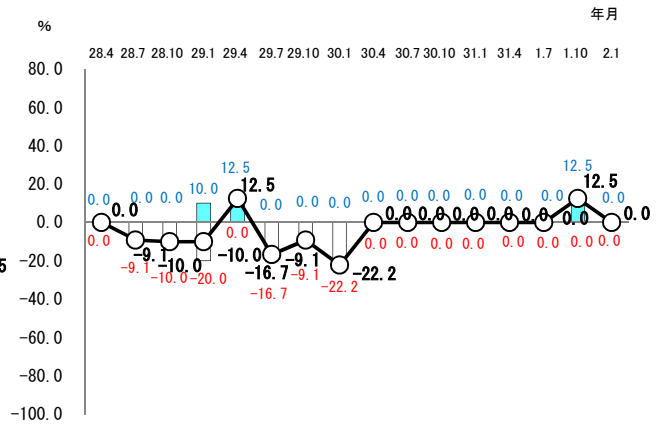
売上高



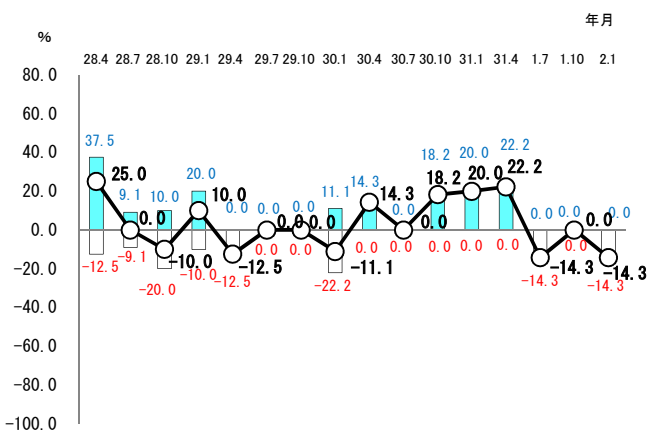
客数 (受案件数)



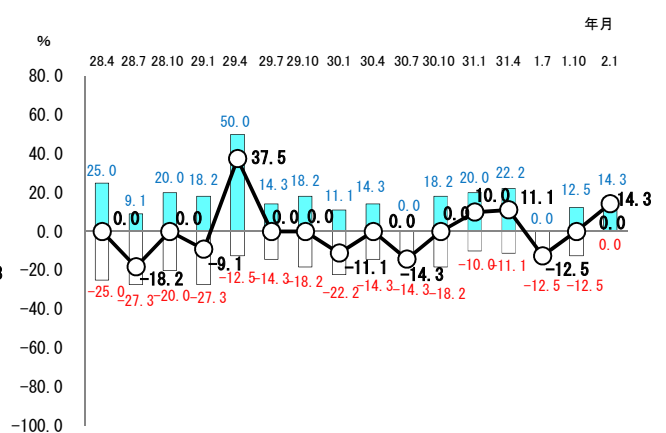
販売価格



資金繰り

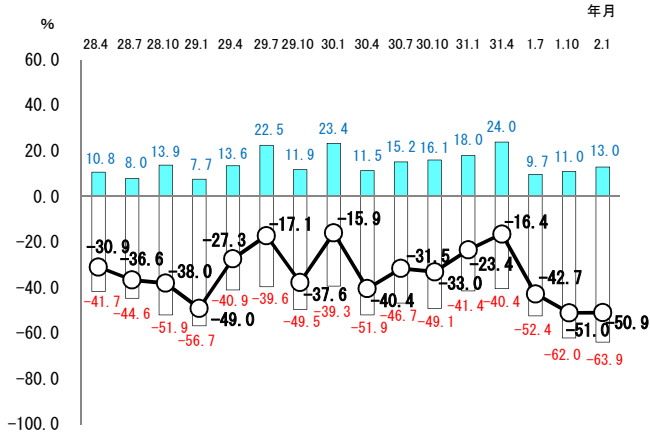


収益率

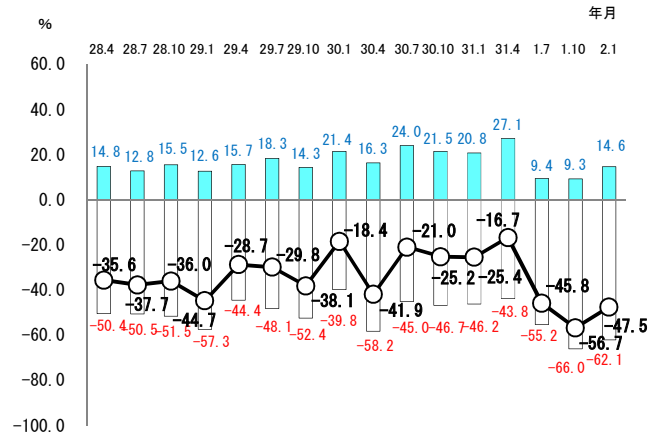


ウ 小売業

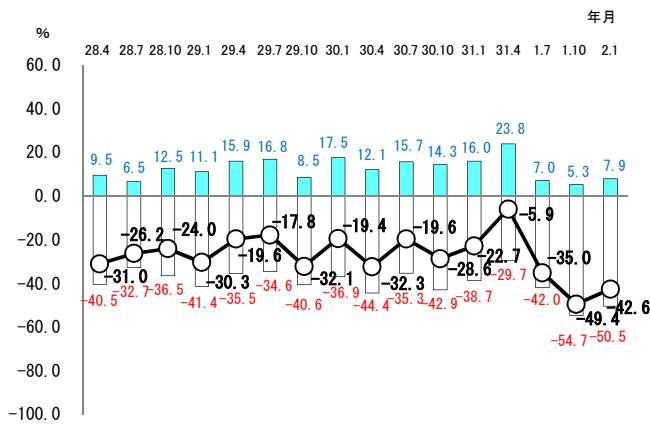
業況



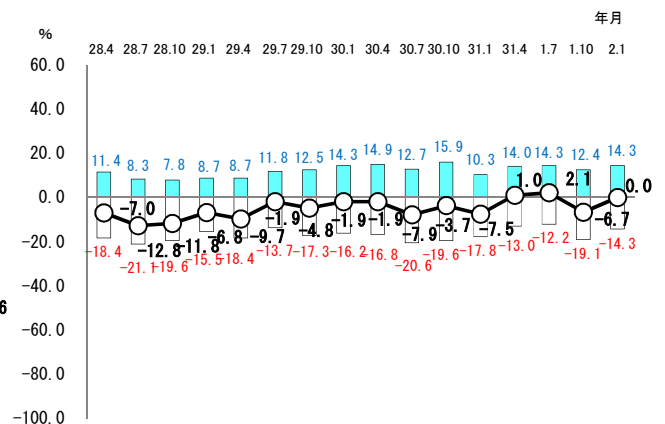
売上高



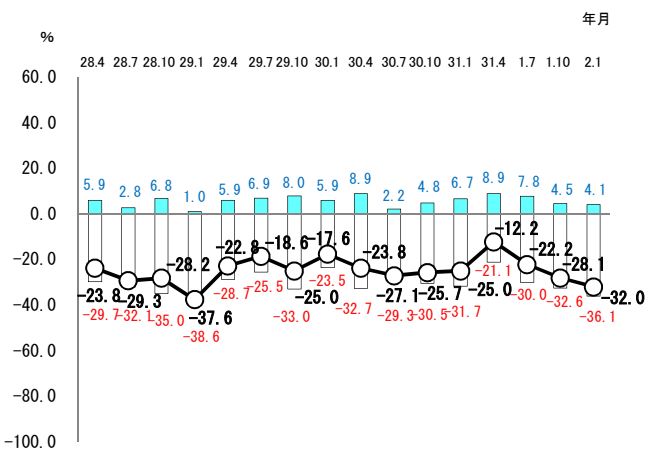
客数



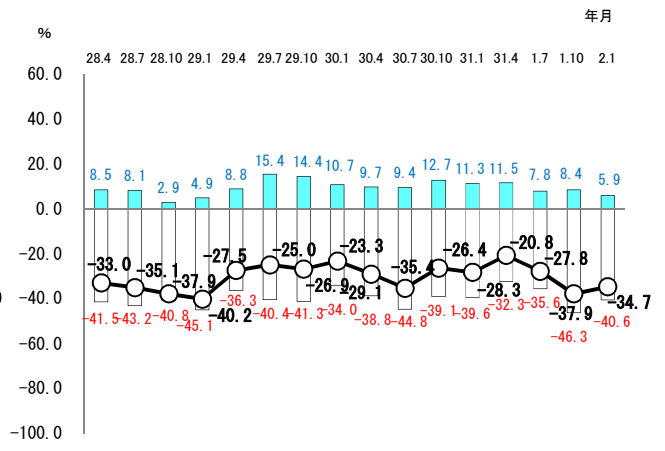
販売価格



資金繰り

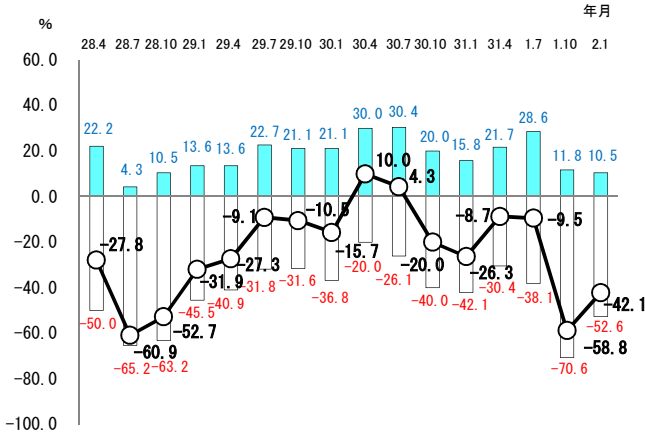


収益率

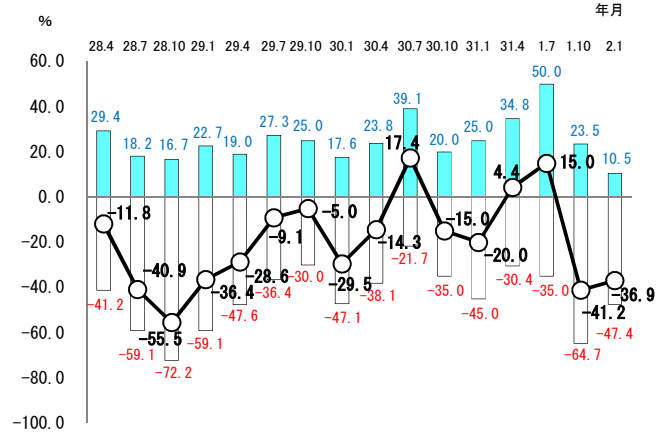


工 卸売業

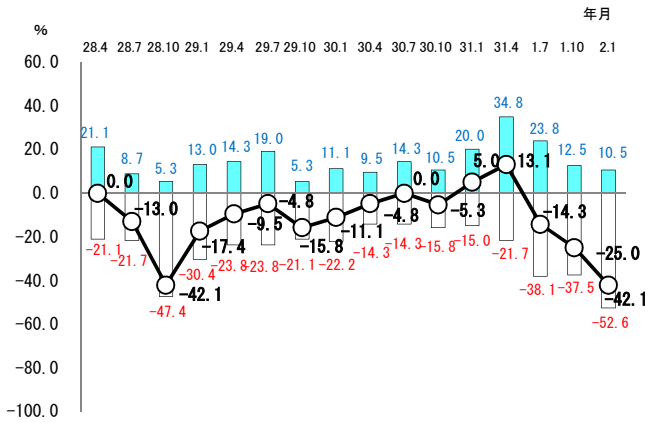
業況



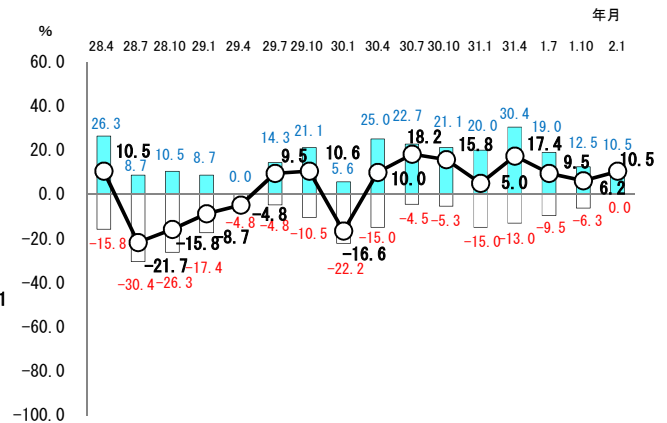
売上高



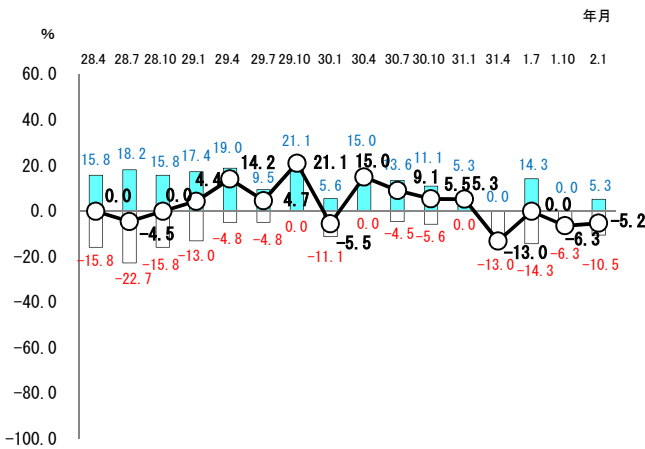
客数 (取引先数)



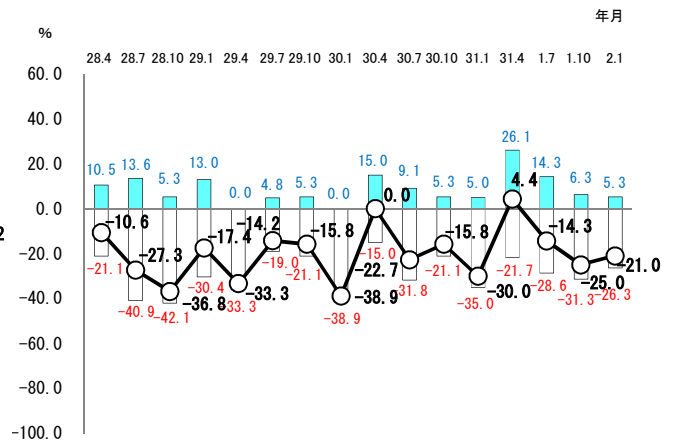
販売価格



資金繰り

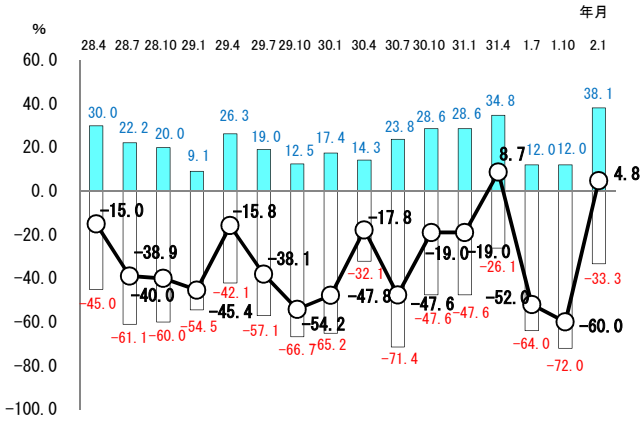


収益率

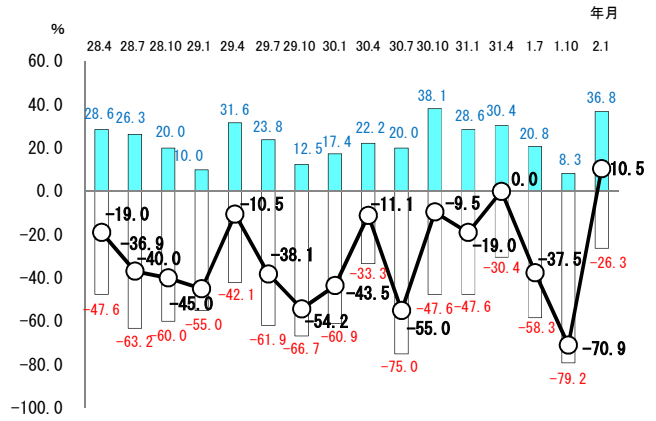


才 飲食業

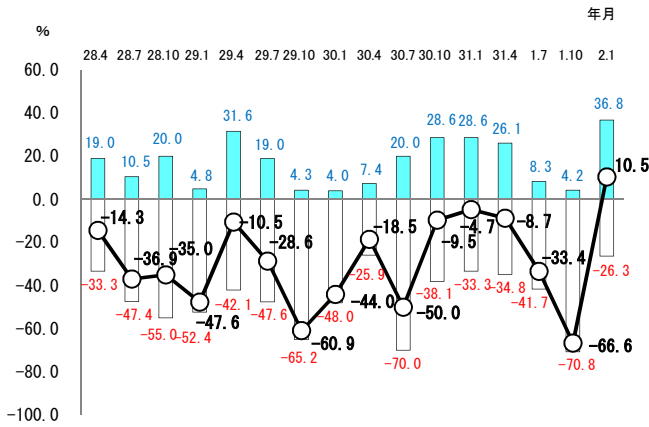
業況



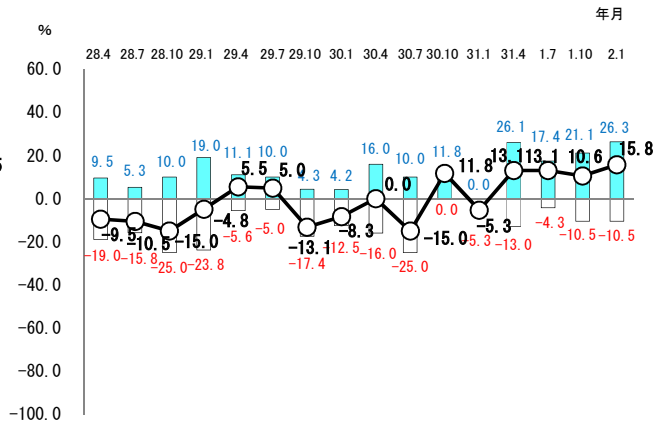
売上高



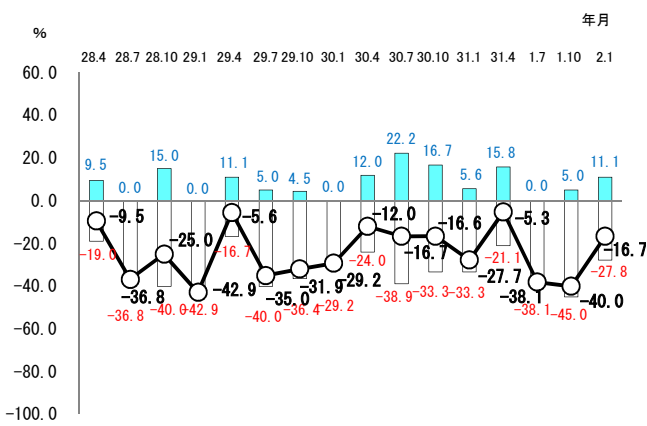
客数



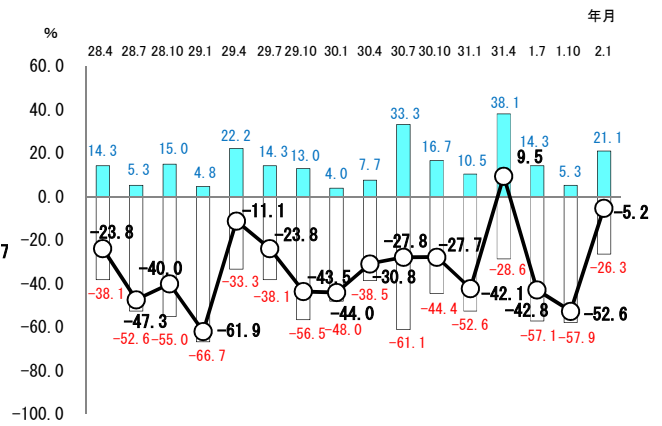
販売価格



資金繰り

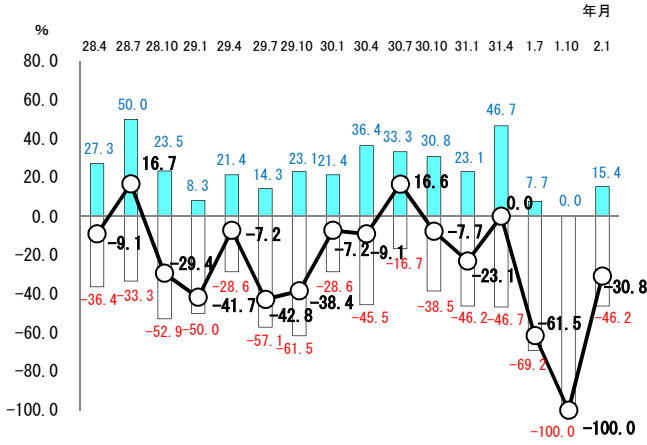


収益率

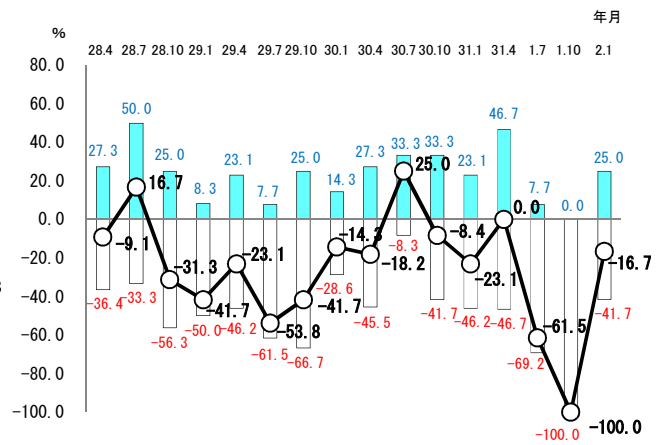


力 宿泊業

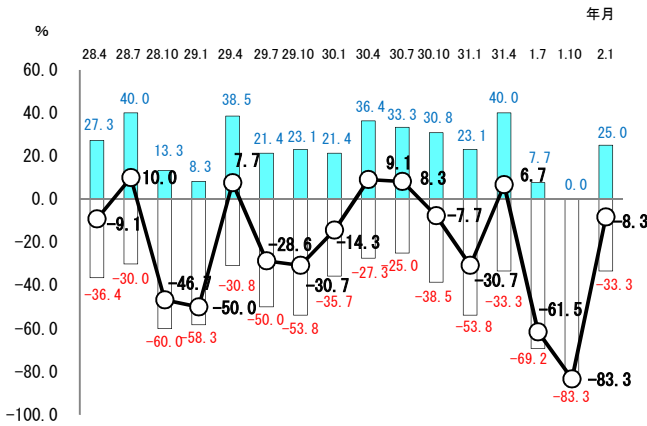
業況



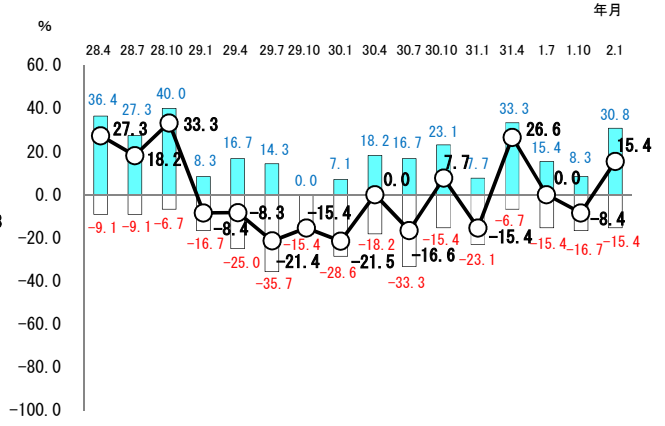
売上高



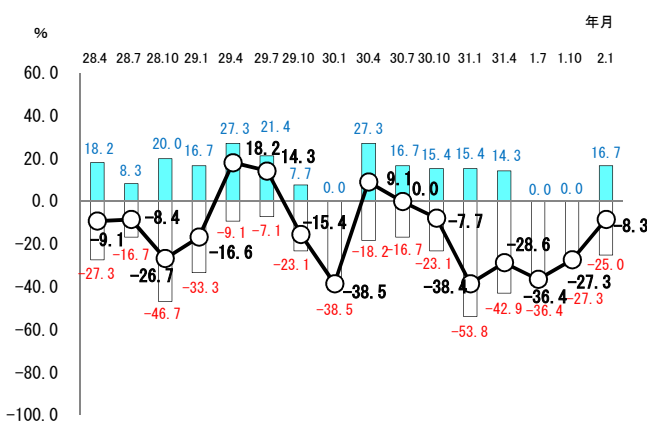
客数



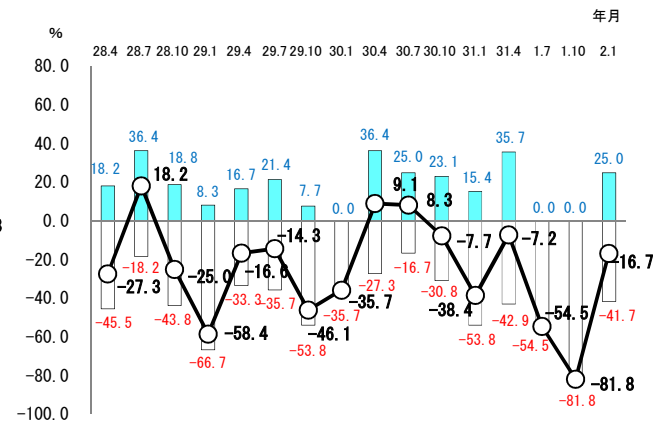
販売価格



資金繰り



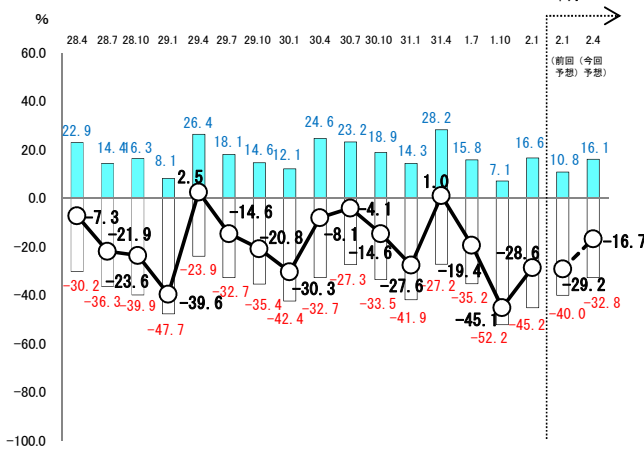
収益率



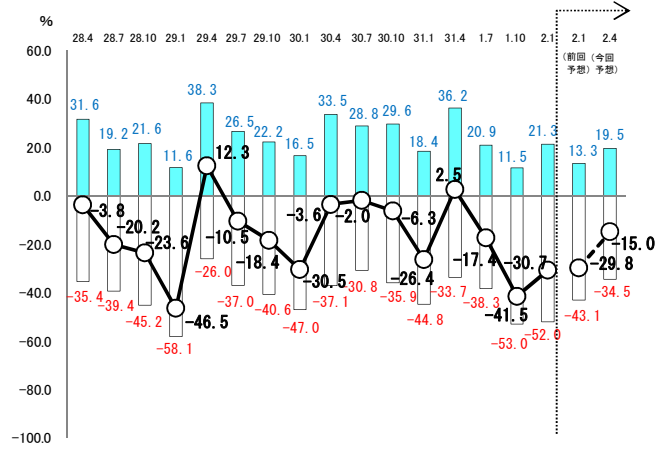
(2) 3か月前に比べて及び3か月後の予想

非製造業全体

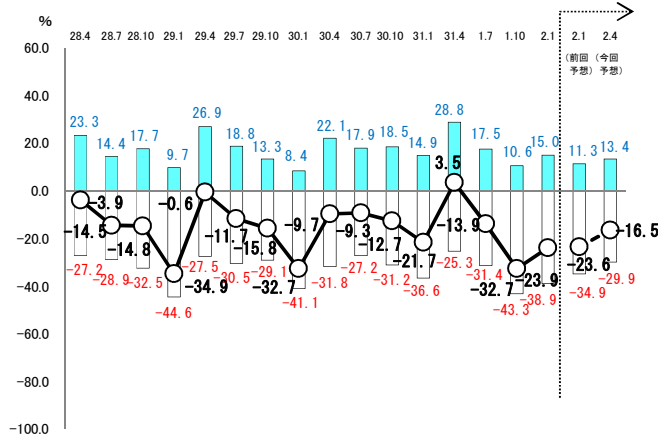
業況



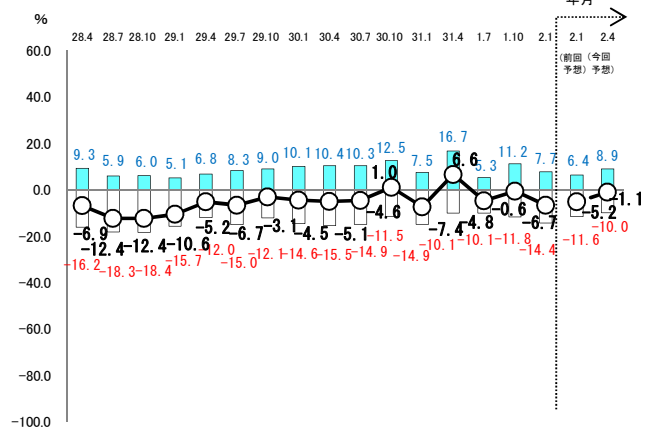
売上高



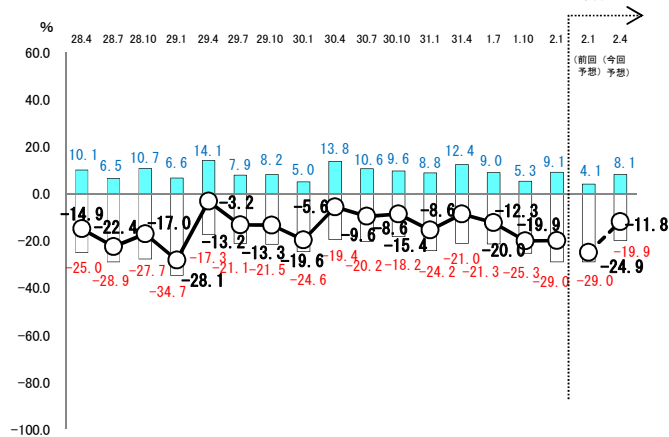
客数 (受注件数・取引先数)



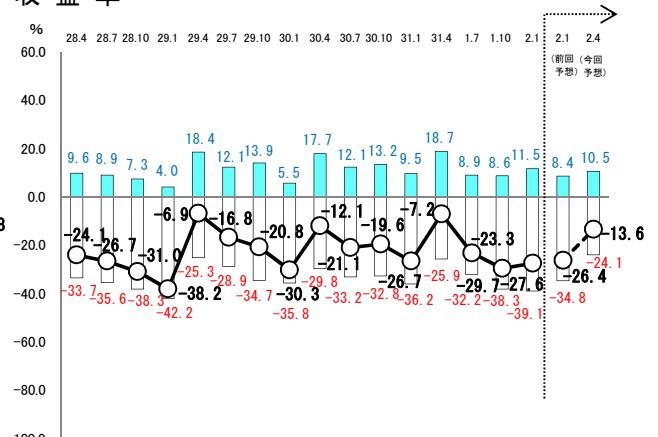
販売価格



資金繰り

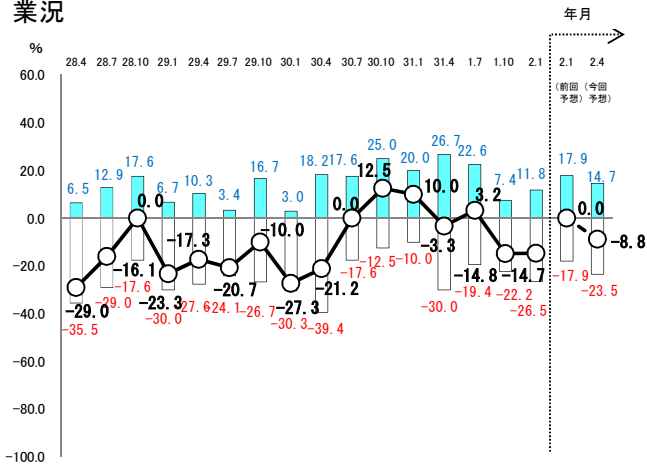


収益率

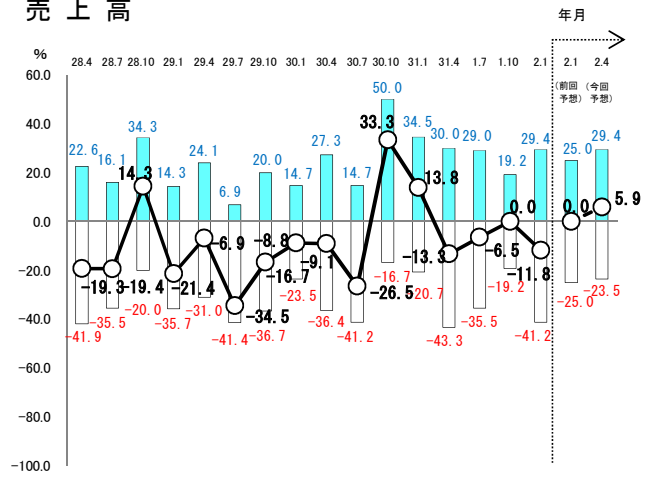


ア 建設業

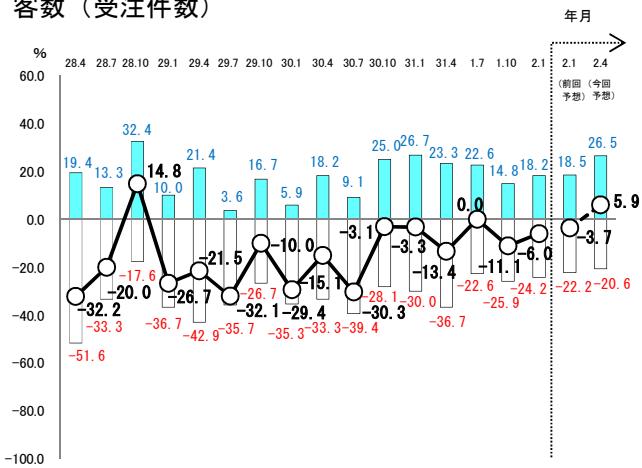
業況



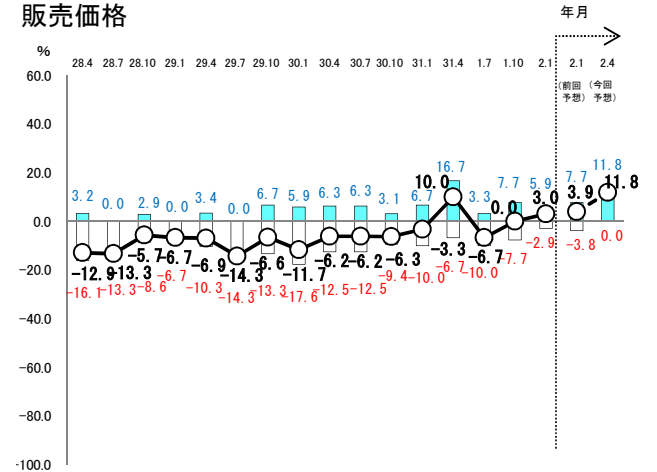
売上高



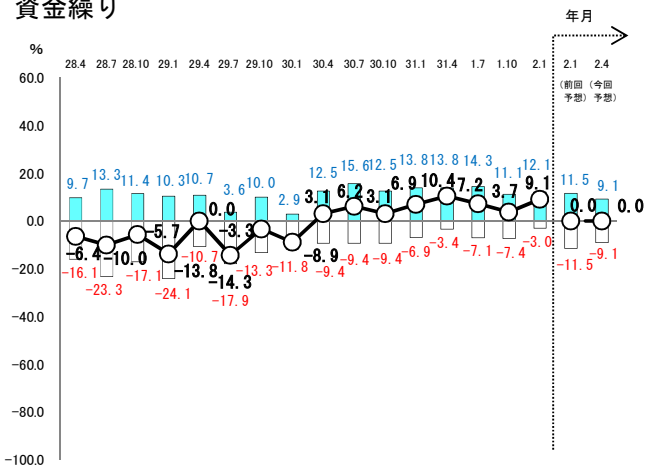
客数 (受件件数)



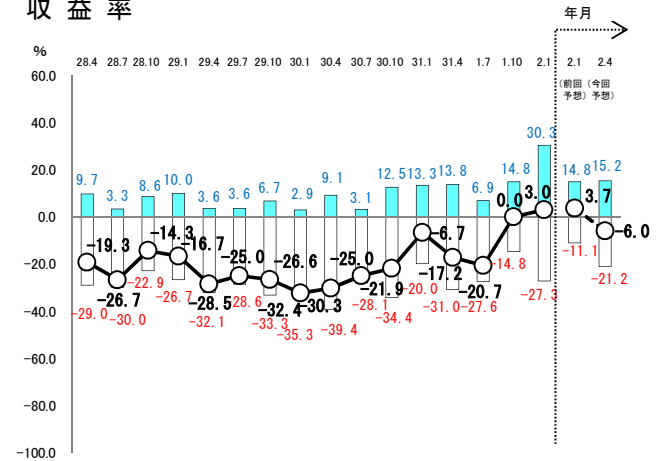
販売価格



資金繰り

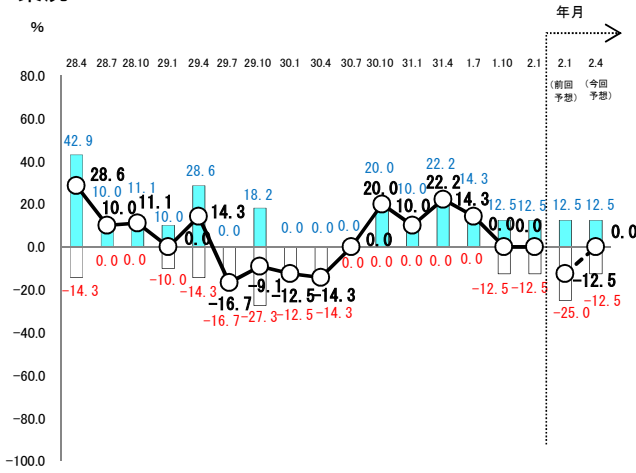


収益率

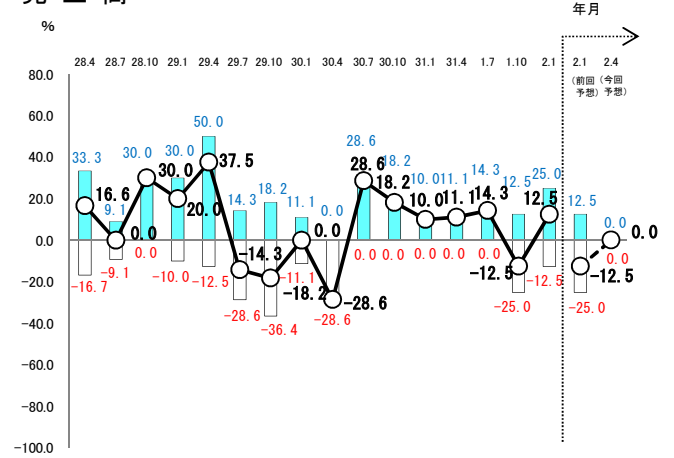


イ 情報サービス業

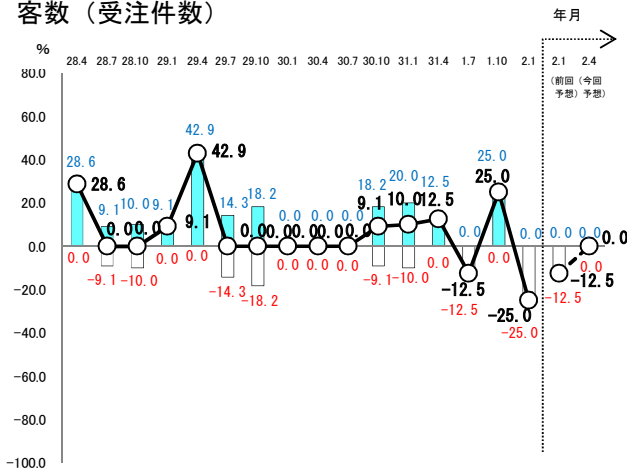
業況



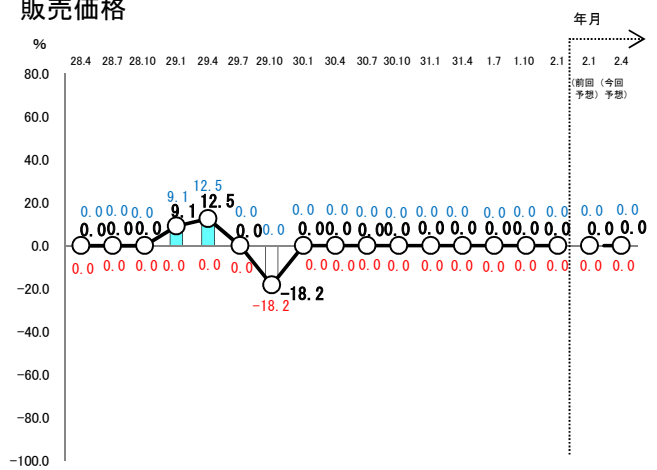
売上高



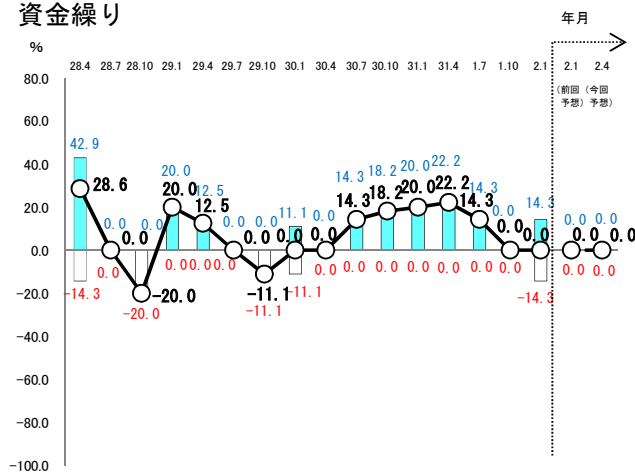
客数 (受件数)



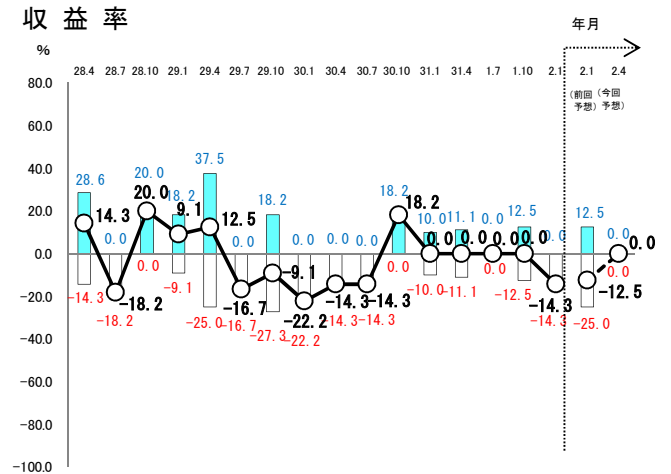
販売価格



資金繰り

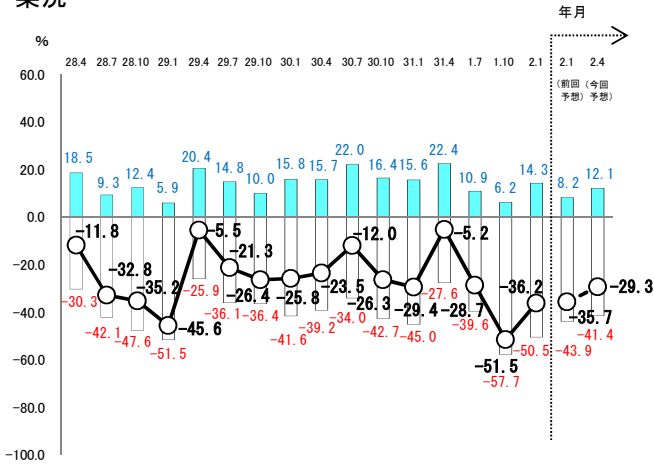


収益率

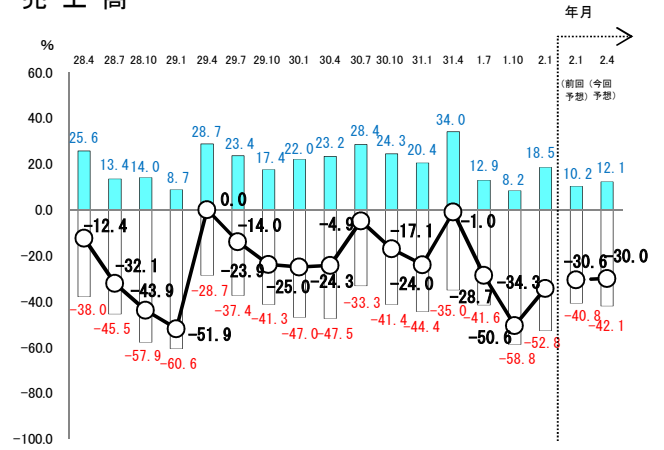


ウ 小売業

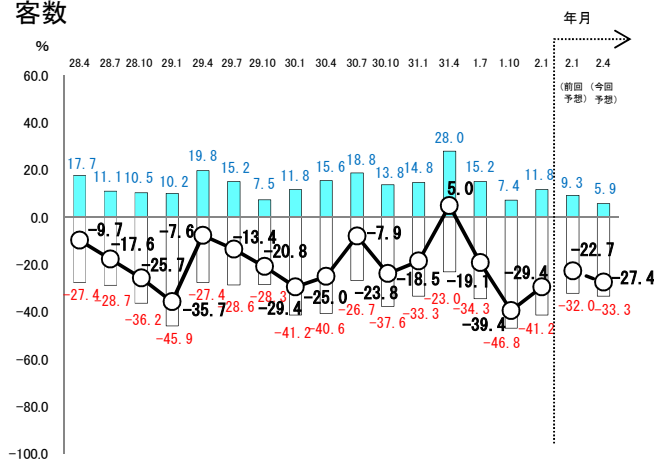
業況



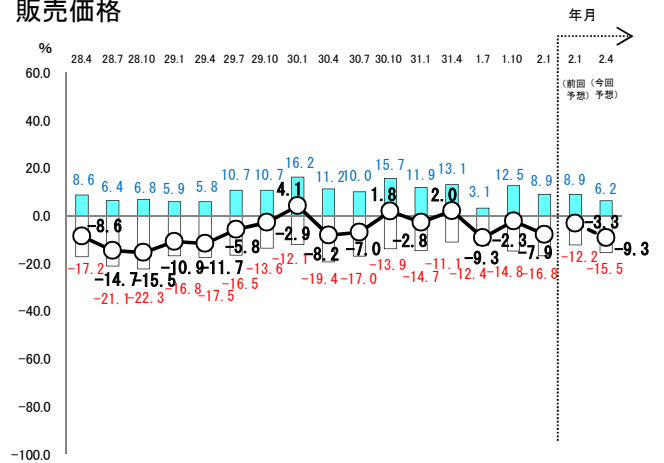
売上高



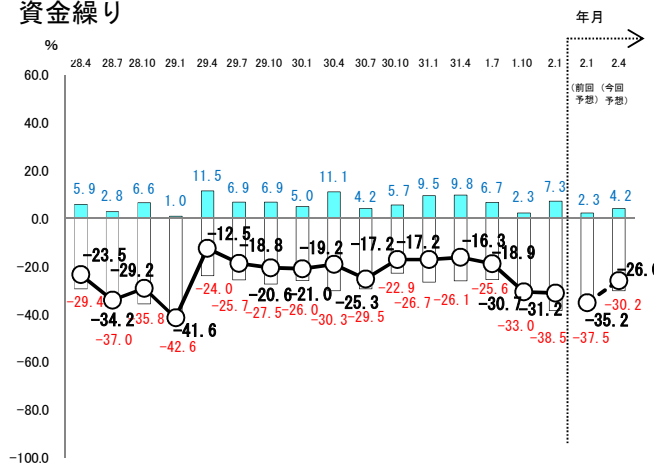
客数



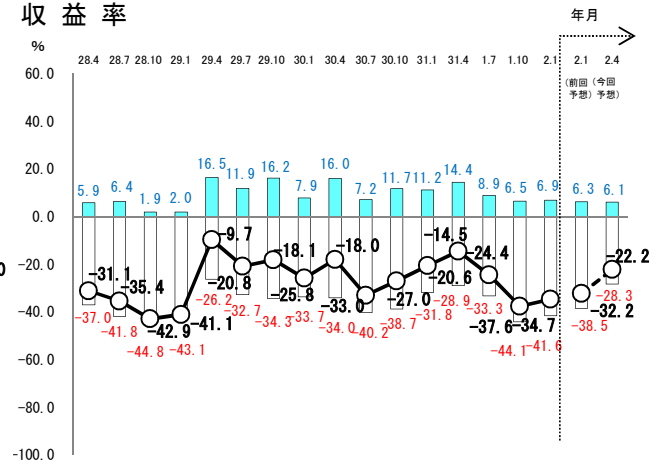
販売価格



資金繰り

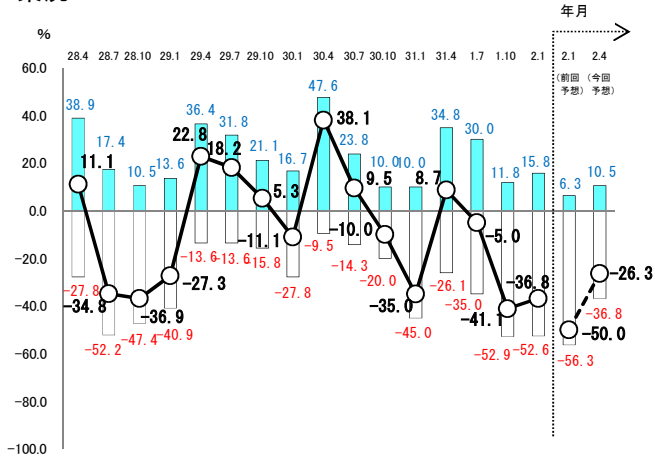


収益率

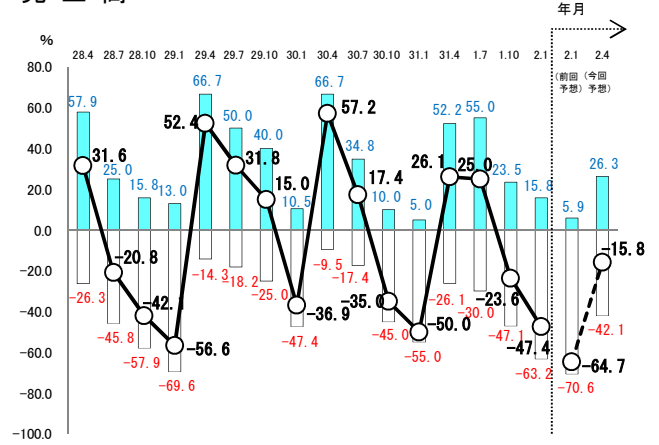


工 卸売業

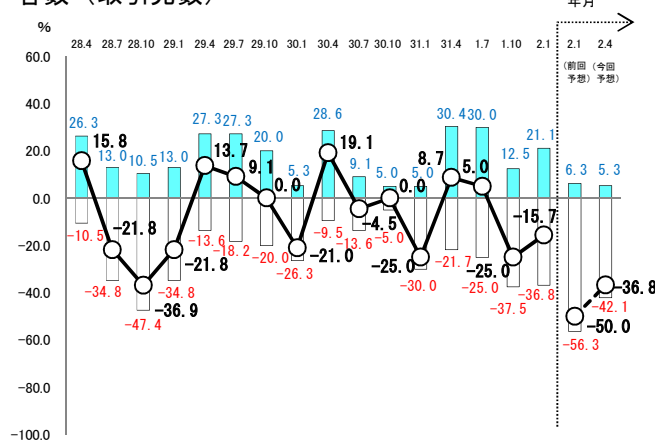
業況



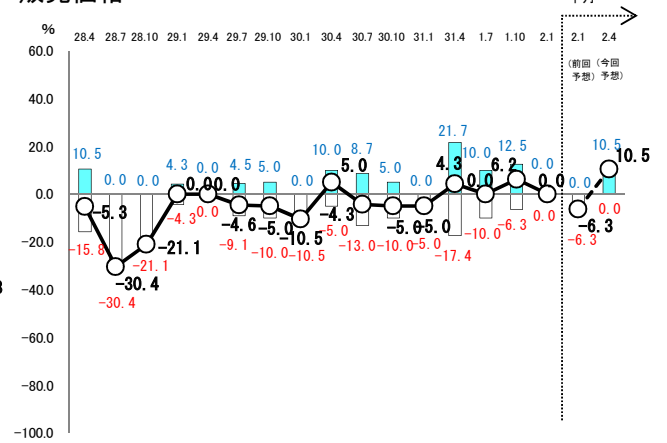
売上高



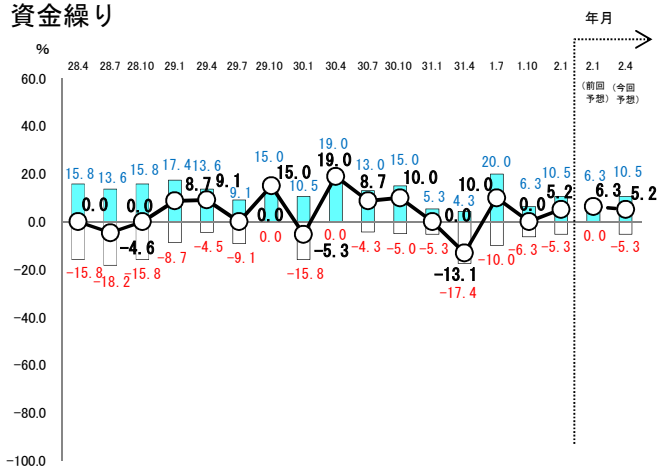
客数 (取引先数)



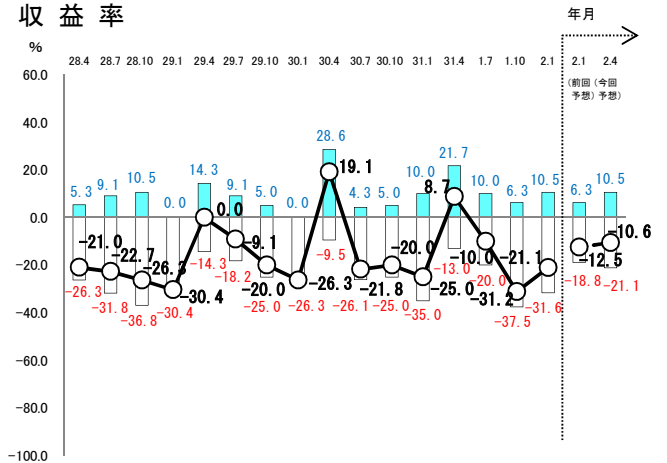
販売価格



資金繰り

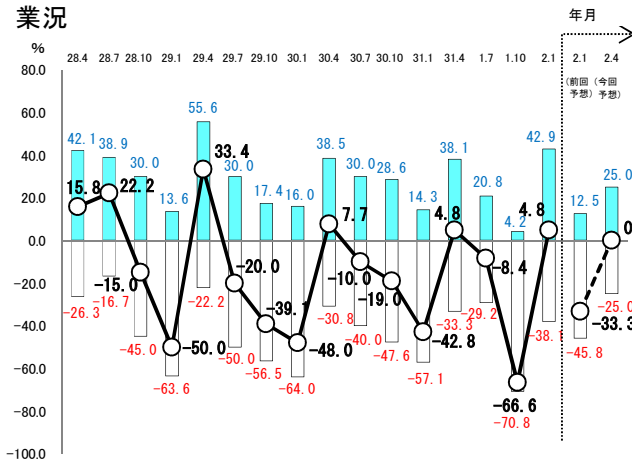


収益率

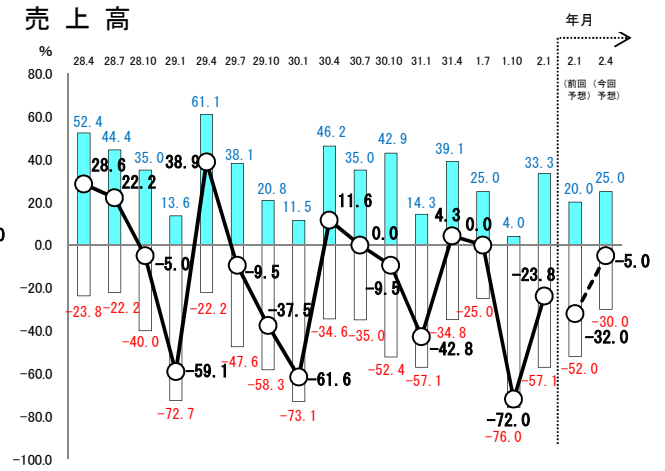


才 飲食業

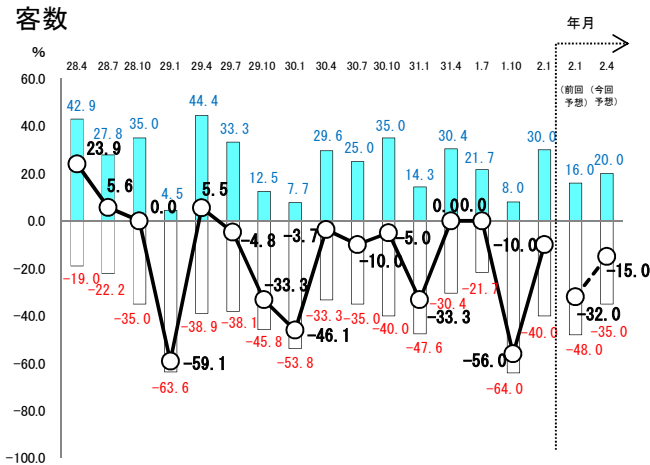
業況



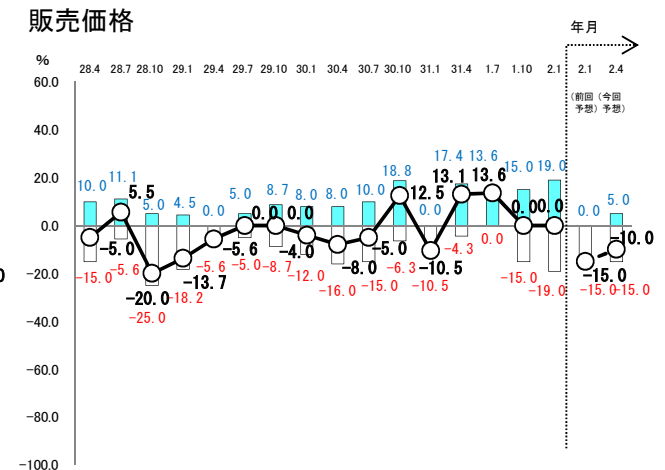
売上高



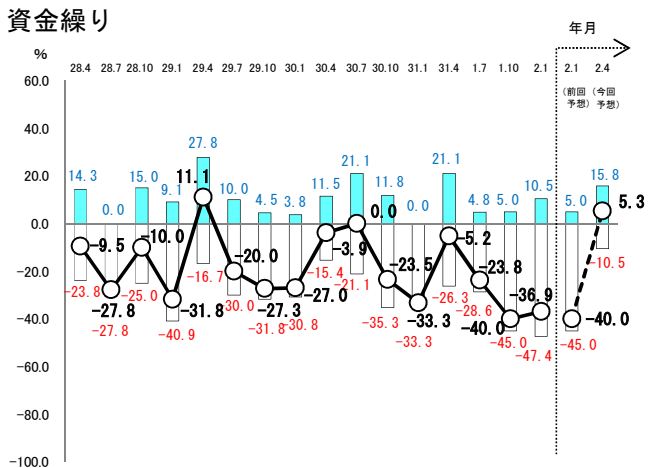
客数



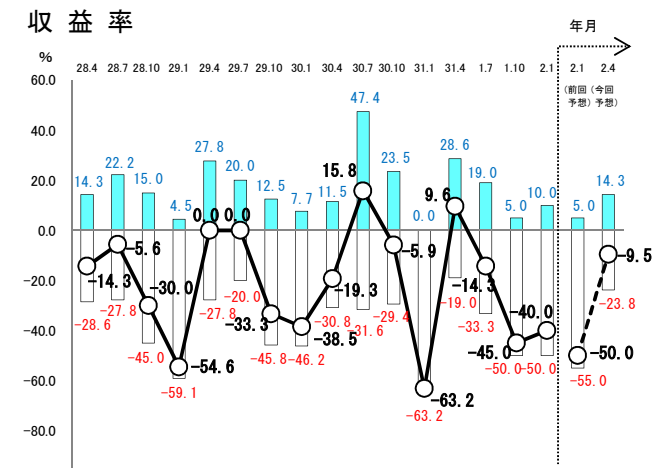
販売価格



資金繰り



収益率



力 宿泊業

業況

